

## ニュージーランド 2025年産キウイフルーツを日本向けに最終出荷

[FreshPlaza 2025年10月30日](#)

### ゼスプリは2025年のキウイフルーツシーズンを日本向け最終出荷で締めくくる

ゼスプリの2025年ニュージーランド産キウイフルーツシーズンにおける最後のチャーター船が、タウランガ港を出港し日本に向った。同船(フェロ号)には、5千トン以上に相当する140万箱以上のゼスプリ・グリーンキウイフルーツが積載されており、11月中旬に東京に到着後、神戸へ向かう予定である。

この出荷は、ニュージーランド産のグリーン、サンゴールド、ルビーレッドの各キウイフルーツを世界50カ国以上の市場へ輸送してきた2025年シーズンのゼスプリのチャーター船として、60便目となる。

コンテナ輸送の最終便も今後数週間以内に出航する予定である。今シーズンはコンテナ輸送の利用も増加しており、2024年の2万500コンテナから2万4千コンテナに増加した。

ゼスプリのジェyson・テ・ブレイクCEOによると、2025年の収穫量は2億1,500万箱、すなわち77万トン以上に達し、これまでで最大の収穫となった。

テ・ブレイク氏は、「弊社の市場は好調に推移しており、欧州では記録的な販売が何週も見られ、米国と中国では9月の中秋節の期間中に安定した需要が見られた」と述べた。

欧州市場におけるサンゴールドキウイフルーツの販売は先週終了しており、グリーンキウイフルーツの販売は11月末まで続く予定である。韓国市場のサンゴールドのシーズンも終了しており、アジアの他の市場と米国では11月下旬から12月初旬にかけて終了する見込みである。

テ・ブレイク氏は、出荷量が1億9,500万箱以上だった昨年から増加したにもかかわらず、販売実績は安定していたと述べた。同社は、北半球の産地からの出荷への円滑な移行を期待している。2025/26年度シーズンにおいて、北半球の産地からは3千万箱以上の供給を見込んでおり、その内訳はサンゴールド2,400万箱とグリーンキウイ700万箱である。北半球産サンゴールドへの切り替えは既に欧州で始まっている。

2025年シーズンの終了に伴い、2026年シーズンに向けた計画と「ゼスプリ2035年戦略」の実行が、ニュージーランド・キウイフルーツ生産者協会(NZKGI)及び収穫後を担う提携事業者と協力して進められている。

この長期戦略は、ブランド主導の需要創出、グローバル供給体制の構築、製品ポートフォリオの計画に焦点を当てている。

「2035年戦略」は、2026年2月に開催予定のゼスプリの戦略会議「モメンタム会議2026」で発表されることとなっている。